

牧島保育園の運営に係る第3回三者協議会会議録

開催日時 令和4年11月30日(水) 18:30~19:25

開催場所 牧島保育園遊戯室

出席者 牧島保育園保護者(保護者会)会長 他2名

社会福祉法人明志会 園長 他1名

市子育て支援課 山口課長、佐々木室長、池田

牧島保育園 野村主任

会議内容

1 開会

2 あいさつ

山口子育て支援課長があいさつ

3 協議事項(議長:山口子育て支援課長兼本協議会会長)

(1) 牧島保育園の民営化後の運営に係る気付き等について

佐々木室長が説明

(質疑)

議長) 日頃思っていることや他の保護者から聞いた内容などの伝えたいこと、これまでの行事で色々気づいた点など教えてもらいたい。

法人) これまでの行事などを振り返ったほうが保護者から意見をもらいやすいと思うので先に話をしたい。8月30日の第2回三者協議会以来の3ヶ月を振り返る中で、9月は年長児とその保護者のバス旅行及び年中児以下の遠足で牧島コミュニティセンターに行く行事があった。コロナ禍で懸念や心配はつきないが無事に実施できたことを喜んでいる。11月5日にはお遊戯会があり、10月はその準備期間で職員も試行錯誤しながら、こちらでも換気などの三密対策を講じ3部制でお遊戯会を無事に終えることができた。園児の家族においては、我が子を楽しみに観覧され、子ども達も家族から愛おしい眼差しや盛大な拍手をもらい良かったと思っている。

ただ、私達も取り組みを進めていく中でいくつか注意すべきことがあり、1つは登園バスによる置き去り問題である。牧島保育園では登園バスを運行していないが、対岸の火事ではなく職員の注意喚起として園内研修を行った。具体的にはいくつも段階があり、保護者がスマホをかざしタップして欠席届を出すことができるようになり、それを確認すれば確認済みであることを配信受信しながら、それがそのままクラス担任への出席届の報告になる。もう1つはその日の給食の準備があり、調理師にも連絡しながら今日は何組の誰が欠席だと、重層的なチェック体制があるにもかかわらずなぜこのようなことが起きたのかを牧島保育園内においても検証した。

またもう1つ今朝の新聞に静岡において1歳児クラスの複数の担任が暴言、しつけという名の暴力を働いている。これも我が事と捉えながら、なぜそのようなことが起きるのか検証したいし、そのような中で保護者が勤めに専念できるよう安全安心に子どもを預かる施設でありたいと思っているので、そこは私たち職員の質の向上、突き詰めると人としての倫理観、道徳を正し我が身を振り返りながら、これからの保育に精進しなければならないと思う。

また、保護者や地域の皆様に支えてもらい感謝している。11月にさつまいもの芋掘りをした。園庭も大豊作だったが地元の農家からお裾分けでさつまいもをもらった。先日はもち米30キロを寄贈してもらい、経緯を聞くと20年も30年も前からJA青年部がもち米を寄贈する中で、牧島保育園と牧島小学校でファミリー餅つきの行事が続いていて毎年この時期になるともらっている。ここもコロナ禍でこの2～3年ファミリー餅つきは行っていない。別の視点で言うと食育を推奨しているが、餅は喉に詰まらせる事故も乳幼児期の子どもには起こり得る事象なのでそこは注意深く、ここ2～3年ほど慎重に見定めているところがあるが、それでも食育なのでおこわにでも使ってほしいと言ってもらい大変ありがたい。保護者のみならず地域の皆様に支えられていることに感謝し、そこに身を置く喜びを感じながら日々の保育に携わっている。バス旅行やお遊戯会のような行事、また普段の保育における保護者の意見を聞かせてもらいたい。

保護者) 毎回言っているが、スムーズに市から法人への入れ替えができたおかげで、子ども達は何の混乱もなく日々の生活ができていると思う。保護者としては健全な保育園生活を送らせることができ、この前のお遊戯会についても、今までは役員として色々協力をしていたがそれが嫌という訳ではなく、今回先生の負担は大きくなったかもしれないがゆっくり見ることができた。

主 任) コロナ前は1部、2部、3部に分けず1度に行っていたので、観覧者も多く遠くからしか見ることができず、育友会役員の保護者に手伝いもお願いしていた。一斉に行うので職員の手が足りず保育室に全ての園児がいるので、乳児のクラスの時は上のクラスの保護者に幕引きや幕開けをお願いし、大道具の出し入れなども順番にしてもらっていた。自分の子の出番の時は見に行っても前に皆が詰めているので遠くから見守る状況だった。今回は3部に分けたことで手が空く職員が出たので、その職員に舞台背景や幕引きを任せるなど役割分担ができたこともある。

法 人) 保護者には座ってゆっくり観覧してもらいたいが、今までは育友会に着付けや舞台背景、バックステージなどの協力をお願いしていた。今年度当初の予定でお遊戯会や運動会は、極力職員を配置し保護者の負担にせず、このような時こそ我が子をゆっくり見ることに専念してもらいたいという方針であったが、今回は公私連携だからこそ派遣職員も見込めたとし、入園する子ども

達の数にもより前年度と単純に比較できないが、あえて単純に比較すると職員も昨年より少し余裕があったことと、やはり3部に分けたことによるものだと思う。

議 長) 1部、2部、3部で保護者は入れ替えたのか。

法 人) 必ず10分～15分ほど休憩を挟み、その間に職員で消毒を行い窓も全開で換気を行った。

議 長) 職員も保護者も少し余裕をもってできたのではないか。

法 人) 11月5日の牧島保育園のお遊戯会は、翌週12日土曜日が楠久保育園のお遊戯会だったので、楠久保育園の副園長が若手保育士2人を連れ3人で見に来ていた。これは姉妹園、法人内の同じ職員として互いの良いところを取り入れることで、相互の刺激が得られるのではないかとということで行った。

保護者) 楠久保育園のお遊戯会も3部制で行っているのか。

法 人) 今年度、楠久保育園のお遊戯会は2部制で行った。楠久保育園ではコロナ前から準備や運営は全て職員で行っていたので、そのやり方は今年から副主任保育士が楠久保育園から牧島保育園に異動しているので、アイデアを出してもらったものと思う。

保護者) 年長のバス旅行に初めて参加した。3箇所訪問し良い企画だと思ったが、昼食を食べるところが想像と違うところだった。

法 人) 昼食場所は運転手にもう少し詳しく言っておけば良かったと反省している。これまでの振り返りと今後の予定などを説明したい。早いもので8ヶ月が過ぎ年長児は最後の年の半分を折り返し、いよいよ卒園も近づいている。年長児に限らず子ども達の発育は身長体重もそうだが、できていなかったことができるようになったり、言葉が出たり、気遣いがあったり、アツと思う瞬間が家庭内でもあると思う。明日から12月に入るがクリスマス会を計画しているし、年が明け1月になると第4土曜日の1月28日午前中に保育参観を予定している。9時から乳児の寒中マラソン、10時からの年少児向けの「うちどく」は、市においても市民図書館が推奨しているので、うちどく推進室長の講話を行う。11時から今年5月に年中、年長児は体育教室がスタートし体操に取り組んでいるので、どのような取り組みをしたか、またどのようなことができるようになったかの成果発表を計画している。

(2) 牧島保育園の新施設の協議状況について

佐々木室長が説明

(質疑)

議 長) 前回の協議会后、9月と11月の2回法人と協議を行った。スケジュールやどのようなものが補助基準に合うか、細かく基本的なものを詰め、少しずつ画を描いていくことになるが、今日はその図面が間に合わなかった。ただ、

明志会では設計会社と話しアイデアを貰ったり、自らアイデアを出したりして私たちが聞いてもワクワクするような話をしてもらっているので、次回の協議会にはそのようなアイデアが詰まった園の図面が準備できるのではないかと考えている。今日は、明志会で考えていることについての説明をお願いしたい。

法人) 以前も話したとおり、早急な建て替えが必要だと感じている。それは前回の8月にも、4月に赴任したばかりで0歳児が2件、1歳児が3件の5件ほどの見学希望があった話をした。今、令和5年度に向けた入園手続きの書類を依頼する中で、牧島保育園への新規入園希望者の見学が11月は毎週1件ずつ4件程度あり、0歳児が第1子のケースもあれば、子どもが2人いるケースもある。このように牧島保育園は非常に保育のニーズがあるので、早急に建て替えたいと思っている。

その中で課題を言うと、まず明志会の経理規定に基づき一般競争入札で速やかに設計士の選定を進めていきたいと思うが、ここには技術的な助言が必要で公私連携のメリットとして市子育て支援課や技術職員のアドバイスを受けながら進めている。1つ問題なのが、物価上昇による建設単価の高騰がとんでもない。これまでは坪単価100万円ほどが今は20%、30%程度上昇し120万円~130万円ほどになっていて、来年はもっと上がるかもしれないと言われている。もう一つは、以前、建て替えの考えを伝えたように既存の園舎でぎりぎりまで運営をしながら園庭に新園舎を建てることで考えている。そこに保護者の車が上手く乗り降りできるように考えているが、工事に入ると工事期間中に園庭での外遊びができないので、具体的なことをこれから検討しなければならない。これもメリットの1つだが、すぐ近くに牧島小学校がありグラウンドの一部を借りることができる連携が取れるかどうかで、もう1つは山や川がすぐ傍にある自然豊かな場所なので、そのようなところに少し散策できる場所があるかである。そこは道路を渡る必要があるのでリスクも想定しそれができるかどうかもある必要がある。法人内や市との事務協議で検討する中で方針が決まり次第、三者協議に諮り意見をもらい進めていきたい。新園舎のコンセプトは防災と防犯に強い園舎であり、そこに遠足で利用した唐津のモーヴィーのような皆で遊べる保育空間があるのが理想的だと思うので、見聞を広げながら皆さんと一緒に話し合っていきたい。

議長) 保護者も具体的な図面などがあれば、ここはもっと広くなどの意見が出しやすいと思う。

保護者) この前のモーヴィーは、安心して子どもを遊ばせることができる施設で、あのように室内でも存分に体を動かすことができる施設があると良いと思う。

法 人) 偶然、訪問先は子ども達がわいわい遊べる場所だったので、三者協議会の委員の保護者にこのような保育室のイメージはどうかと私から話を聞いた。

保護者) 乳幼児の遊ぶエリア、3歳~4歳児に丁度良いエリア、それより上でも遊べるエリアに分かれていて保護者の目も届く施設だった。

法 人) あのような空間は、様々な視点、観点から創り出され具現化されたものだと思う。

法 人) 海外の有名なメーカーのものであるが、それ以外の国内メーカーでも自然のものをふんだんに使った良い遊具を作っているところがある。乳幼児期は遊びの中で学び成長し、今は遊びを連続することにより子どもたちが自らアイデアを出し学ぶことを大事にする保育になっているので、そのような環境をしっかりと整えることができる園舎づくりをしたい。図面ができれば実際に保護者に見てもらい意見を出してもらいたい。

保護者) 図面ができるのはまだ先になるのか。

法 人) まず業者の選定を行う必要がある。

議 長) 年が明けたらすぐ業者を決め、基本設計ができた時には保護者に見てもらい部屋や送迎ルート、事務室がどこにあり目が届く設計になっているかなど様々な視点で話ができると思う。

法 人) 令和7年度の開園から逆算すると、年末には一般競争入札に諮り、年が明けて1月には業者を決めなければ全体が遅れ令和8年度になるかもしれない。令和7年度の開園を目指しこの2年半で何とかするため、急ぎながらもしっかりとパートナーとなる設計士を選ぶ必要がある。

保護者) 建築費はずっと上がっていくのか。

法 人) 建設を1年ずらしても建設単価が落ちることはなさそうである。

保護者) 木材はウッドショックが収まっても価格は変わらないと聞く。

法 人) 国内外の様々な要因で価格が高騰している。今でも高いがこの後も落ち着く要素がないので早いうちと思っている。

保護者) 前回大坪保育園の視察をした時に新園舎への明志会の2人の熱い思いが伝わってきて、安心できると思った。

議 長) それは私達もいつも感じている。業者と今回はこのような話をしたという情報をいつも伝えてもらい、私たちも勉強になるし皆さんと同じ気持ちだと思っている。次の協議会には、少し形ができて皆さんと協議ができればと思っている。

(3) その他

法 人) 明志会がリトミックで導入している「しんび音楽教室」の指導者と面識があるバイオリン奏者と打楽器カホンの演奏者から、牧島保育園で子ども達と一緒に演奏を楽しみたいと言ってもらった。このような本物のコンサートを

聴く機会は少ないので、年明けになるが日程等が決まればお知らせしたい。

1月は保育参観もあるが、滅多にない機会なのでこの計画も進めていきたい。

保護者) コロナは第8波で増えているが、牧島保育園では出ていないのか。

法 人) 牧島保育園内では今のところ園児の届出はない。

保護者) 佐賀県内の人数しか分からないので、どのような状況かと思い確認した。

法 人) 昨日は1,000人を超え1,010人だった。第8波の様相であるが、牧島保育園内においては今のところ報告はあっていない。

法 人) 保育園でコロナの感染者が発生した時は、すぐ保護者に知らせるようにしている。

保護者) 1月第4週の保育参観の時に増えた場合は今のところ予定通りなのか。

法 人) コロナウイルスはワクチン接種の副反応もだが、子どもが高熱で重症化することはまず聞かないので、乳幼児期の子ども達には同じワクチン接種でもどちらかと言えばインフルエンザの方が時に重篤であったり、場合によっては脳症で死に至るような危険性があるのではないかと思う。互いに注意に努め連絡は速やかにもらうので、その中で適切に報告をしながら牧島保育園を取り巻く状況の発信に努めたい。

保護者) イベントが原因でコロナになったという人は少なくなった。

法 人) 黙食については今日の佐賀新聞でもあったが、文部科学省所管の小中学校で黙食はどうかという話があったし、文部科学省と厚生労働省の違いはあるものの、保育園でも黙食はどうかという話があると聞いている。そのような中でもパーテーションや距離を保つというところはあるので、コロナはもう仕方ないというウイズコロナでしっかりと注意を払いながら、でも絶対喋らない、絶対こうしなければならないという過度なことは段々和らいでいると感じていて、その中で少し心配するのは、もしもそのことで悩みや困りごとがあれば子育て同様に抱え込まずに是非相談してもらいたい。

4 次回開催日について

5 閉会